

SEED (シード)

Vol.020
2024.01月

令和5年も師走を迎え、「駒大生社会連携プロジェクト」もいよいよ終盤です。今回は3団体の取り組みをお伝えします。

【世田谷区部門】経済学部 松本 典子先生プロジェクト活動報告 まちのキーパーソンから学ぶ「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究

まちのキーパーソンから学ぶ「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究の第4回目として、11月16日に尾山台のタタハウスに中島幸志さんをお呼びして講演&交流会を行いました。中島さんは、ウェルビーイング起業家/アントレプレナーシップ研究家で、多岐に渡りご活躍をされています。今回の講演テーマは「応援され続けるビジネスの考え方」で、共感の視点・特性についてお話いただきました。参加者は、約20名でした。

中島さんは、社会課題とビジネスの両立をテーマに、社会の価値観をアップデートする「共感起業」を提唱し、NPO法人コモンビート、株式会社HASUNAなど、スタートアップからNPOまで約30社の起業や経営に携わり、これまで500人を超える起業家を支援してきました。現在は「感性で育まれるウェルビーイングな社会」の実現に向け、自分事で社会に取り組む人を増やす「アントレプレナーシップ」の研究と実践を行い、サステナブル・ストーリー株式会社の代表を務めています。この会社では、企業内起業家育成/人材開発、キャリア支援、地域通貨の運用など、ウェルビーイングに関わるビジネスの支援が行われています。

講演では、中島さんの実体験を踏まえ、これまでの起業のお話や共感の種類・視点について説明してくださいました。まさに、今回のテーマの軸である「共感」の持てるお話のされ方・内容でとても勉強になりました。特に印象に残ったことは、「共感」という1つの単語にも3種類の意味があり、その中でもビジネス(私生活)において大事なことは、同情という意味の「sympathy」ではなく、寄り添いや心が響きあうことを意味する「empathy」ということでした。つまり、人と人との繋がりの中で、重要なのは価値観の共有(寄り添い)であることを学ぶことができました。

今回は、中島さんをゲストにお迎えし、「応援され続けるビジネスの考え方」というテーマでお話を聞くことができ、大変貴重な時間を過ごすことができました。今回のお話は、起業家のみならず、私たち学生にとっても共感できることが多く、今後ますます「共感」・「応援される力」が重要なキーワードとなり、身につけていくべきスキルではないかと感じました。



【世田谷区部門】経済学部 長山 宗広先生プロジェクト活動報告

P B L 型授業のモデル確立 – 世田谷発の起業家教育 –

本格的な問題解決型学習、実践体験型PBL授業に取り組みました。

経済学部の2023年度前期開講科目「アントレプレナーシップ養成講座」では、本格的な問題解決型学習（PBL：Project Based Learning）、実践体験型PBL授業に取り組みました。履修者は、経済学部2年～4年の120名。

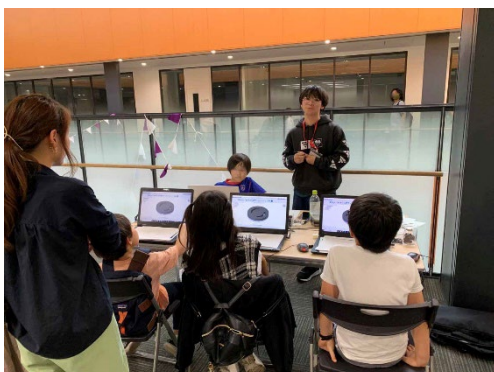
PBLの連携相手とスケジュールは、①(株)デロイトトーマツベンチャーサポート（4/13～5/25の6回）、②(株)アザイ・コミュニケーションズ（6/1～6/15の3回）、③(株)Be（6/22～6/29の2回）、④(株)シンシアージュ（7/6～7/20の3回）です。

本号では、(株)アザイ・コミュニケーションズ（代表取締役 久木田寛直氏）と連携して取り組んだ産学連携プロジェクト「世田谷デジタルものづくりフェス2023」を紹介します。

このプロジェクトは、前期の「アントレプレナーシップ養成講座」の授業後、学生有志で取り組んだ課外活動という位置づけです。学生主体の「世田谷デジタルものづくりフェス実行委員会」を組成し、その主催のもと、(株)アザイ・コミュニケーションズが側面的に支援するといった体制で、夏休みからの約3か月間、準備をしました。

ものづくりフェスは、オータムフェスティバルの日程に合わせ、11月4日・5日の2日間、本学駒沢キャンパス3号館の種月ホールで開催しました。フェス当日は、「MakeX Zero Carbon 体験」「ChatGPTでオリジナルチャットボット先生を作る」「マイクラフトでキャスルクラッシュ」「3Dプリンターでコマをつくる」など、体験会やワークショップ・講演会を実施しました。

参加者は、世田谷区内の小学生・親子連れが多く、一般参加者が1日目510名、2日目640名、合計1150名でした。実行委員会メンバーの学生は、ここまで大規模なイベントの企画・運営を経験したことが無かったため、戸惑いや不安もあったようですが、結果的に素晴らしい成功体験となったようです。



【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト活動報告

「日本保健物理学会第56回研究発表会」で報告 異世代・異分野調査とミニ講義も行いました。

2023年7月、本学医療健康科学部の3年生を対象に放射線の知識と健康影響に関する調査を行い、その結果を「日本保健物理学会第56回研究発表会」で報告しました。会場からは、放射線処理水の海洋放出に関する意識調査について、タイムリーな課題に取り組んでいることに高い関心が寄せられ、本調査を継続的に行うことの重要性について活発な意見交換が行われました。

更に、異世代と異分野を対象とする観点から、駒澤大学高等学校1年生と本学心理学科生を対象にも同様の調査を展開しました。

調査時には日常生活の放射線の存在とその影響に関するミニ講義も行いました。



webミーティングの様子



駒高生を対象に実施した様子



駒澤大学心理学科を対象に実施した様子

加えて、8月から継続して絵本作家保科琢音氏、NPO法人Medical PLAYの小野浩二郎氏の指導のもと、ぐるプロジェクトへのエントリー用ドラマシナリオの作成を進めています。

駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → [社会連携センター「お知らせ」](#)